Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 18第43号
2019年（平成31年） 2月15日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電話 （03）3534-7411（代）
FAX （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

1/31~2/6のNYMEX・WTIは、53.66～55.26ドルの範囲で堅調に推移した。

2月7日は、EUの2019年ユーロ圏実質GDP成長見通しの下方修正や米中貿易協議の先行き不透明感など、世界経済の減速懸念、また、リビア国民軍のシャララ油田の奪還による操業再開観測から反落した。3月限終値は前日比1.37ドル安の52.64ドル。

週末8日は、世界的な景気減速の懸念の一方で、OPEC・非OPECの協調減産が順調に進んでいるとの見方から、小反発した。ベーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数は854基（前週比7基増）だった。3月限終値は前日比0.08ドル高の52.72ドル。

週明け11日は、同日北京で開催された米中貿易次官級会議で進展が見られなかったことから、反落した。3月限終値は前週末比0.31ドル安の52.41ドル。

12日は、OPECの1月産油量が前月比79.7万b/d減の3080.6万b/dとなったとのOPEC月報の発表、サウジのファリハ・エネルギー相の同国の3月産油量を当初予定より50万b/d減産し980万b/dとするとの発言で、需給均衡への期待感が高まり、反発した。3月限終値は前日比0.69高の53.10ドル。

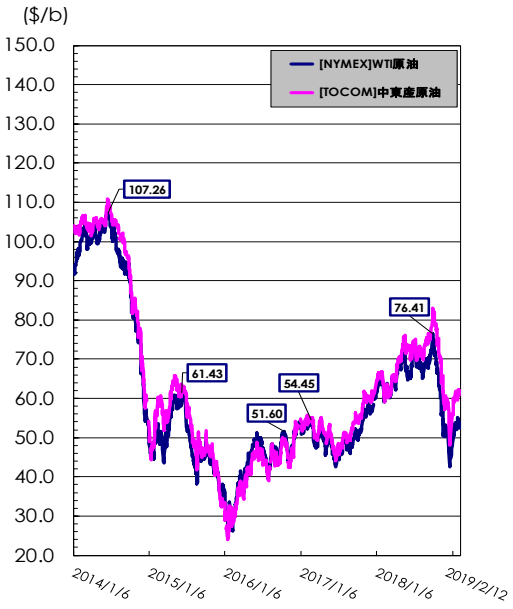
13日は、EIAの在庫週報で原油在庫が予想を上回る前週比積み増しだったものの、APIの原油在庫は予想外の取り崩しだったこと、クッシング在庫も減少したことで、続伸した。3月限終値は前日比0.80ドル高の53.90ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（3月渡し）は1月31日～2月6日の間60.70～62.90ドルの範囲で推移した。2月7日62.50ドル、8日61.40ドル、12日61.90ドル、13日63.40ドルで推移した。

為替は、1月31日～2月6日の間108.94～110.03円の範囲で推移した。2月7日109.94円、8日109.84円、12日110.55円、13日110.55円で推移した。

そのような中で、2月12日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値下がり、軽油は同0.1円の値下がり、灯油は同2円の値下がり（18㍑ベース）だった。ガソリン、軽油、灯油ともに3週ぶりの値下がりだった。この週（2月第2週）の原油コストは値上がりで、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに0.5～1.0円の値上げに分かれた。

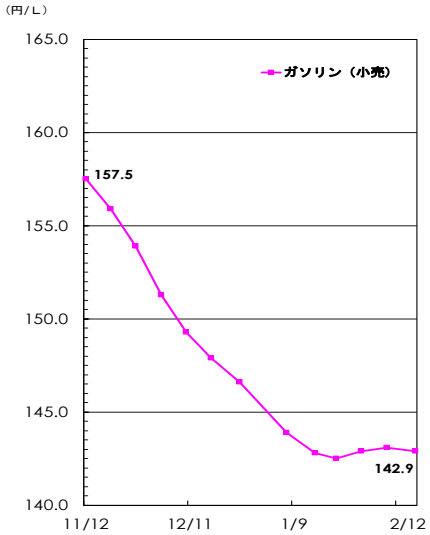
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	2/3 ～ 2/9	3,560	▲ 28	▼ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	90.9	▲ 0.7	▼ －
需給	原油在庫量	（千kl）	2/9	11,801	▼ -916	▼ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	2/12	61.56	▼ -0.79	▲ 2.2
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	2/11	52.41	▼ -2.15	▼ -6.9
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	1月中旬	62.05	▼ -3.65	▼ -2.53
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	42,276	▼ -3,814	▼ -3,405
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	108.32	▲ 3.22	▲ 4.14
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	2/12	111.55	▼ -1.02	▼ -1.82



（単位：千kl、円/㌔）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		2/3 ～ 2/9	974	▲ 17	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	915	▲ 26	▼ –
	輸出		〃	21	▼ -204	▼ –
	在庫		2/9	1,705	▲ 38	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	2/5 ～ 2/11	56.5	▲ 0.5	▼ -4.6
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/5 ～ 2/11	53.1	▲ 1.5	▼ -4.6
		(TOCOM/中部)	2/8	55.5	▲ 0.7	▼ -1.4
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	2/12	142.9	▼ -0.2	▼ -2.0

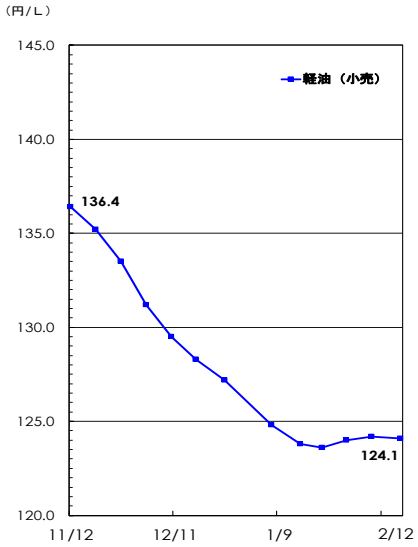
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

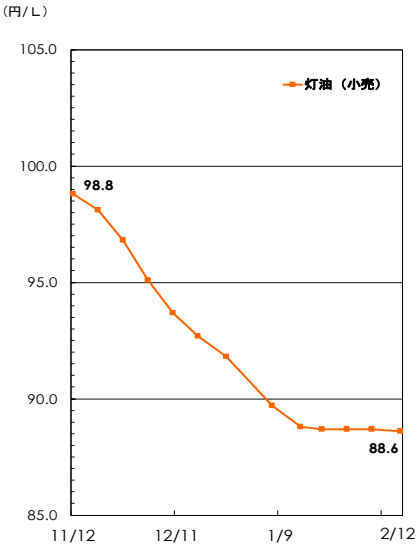
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		2/3 ～ 2/9	878	▲ 10	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	697	▼ -34	▲ –
	輸出		〃	241	▲ 50	▼ –
	在庫		2/9	1,549	▼ -60	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	2/5 ～ 2/11	60.0	▲ 0.1	▼ -1.9
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/5 ～ 2/11	62.2	▲ 1.0	▲ 2.2
		(TOCOM/中部)	2/8	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	2/12	124.1	▼ -0.1	▲ 1.2

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		2/3 ～ 2/9	412	▼ -67	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	512	▲ 12	▼ –
	輸出		〃	20	▼ -51	▲ –
	在庫		2/9	1,801	▼ -120	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	2/5 ～ 2/11	59.8	▲ 0.1	▼ -5.2
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/5 ～ 2/11	59.1	▲ 0.1	▼ -5.3
		(TOCOM/中部)	2/8	59.0	▼ -2.0	▼ -5.8
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	2/12	88.6	▼ -0.1	▲ 0.5



■ 関連情報

1　海外/原油

2月13日のNYMEX市場WTI原油は、この日午前発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、米国内の原油在庫が前週比360万バレル増と市場予想(270万バレル増)を上回る増加を示したものの、前日夕刻発表の米石油協会（API）の原油在庫発表で予想に反して100万バレルの取り崩しであったこと、WTI原油の受渡点であるクッシングの在庫減少が報じられたことで、続伸した。米中貿易協議への期待や米国予算を巡る与野党合意を好感した米国株価の上昇も支援要因となった。3月限終値は前日比0.80ドル高の53.90ドル。4月限の終値は前日比0.84ドル高の54.31ドルだった。

EIAによると、2月11日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.2セント値上がりの1ガロン2.276ドル（66.1円/㍑）、ディーゼルは前週比横ばいの2.966ドル（86.1円/㍑）となった。ガソリンは2週ぶりの値上がり、ディーゼルは前週比横ばいだった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、平成31年2月3日～2月9日に休止したトッパー能力は12.8万バレル/日で、前週に対して変化はない。（全処理能力は351.9万バレル/日）。原油処理量は356.0万klと、前週に比べ2.8万kl増加。前年に対しては8.2万klの減少。トッパー稼働率は90.9%と前週に対して0.7ポイントの増加、前年に対しては2.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/1.8%増、ジェット/10.7%減、灯油/13.9%減、軽油/1.2%増、A重油/14.5%増、C重油/30.5%増。今週のC重油の輸入は0.2万kl（前週比3.9万kl減）。軽油の輸出は24.1万kl（前週比5.0万kl増）。

出荷（輸入分を除く）は、前週比では軽油、A重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比では軽油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は91.5万 kl（対前週2.9%増）と前週比で2週連続で増加となり、6週連続で100万klを下回った。ジェット11.3万kl（対前週10.1%増）、灯油51.2万kl（対前週2.3%増）、軽油69.7万kl（対前週4.7%減）、A重油28.9万kl（対前週7.9%減）、C重油23.4万kl（対前週46.8%増）。

（単位：千KL）

	今週 (2/3 ~ 2/9)	前週 (1/27 ~ 2/2)	前週比	
ガソリン	915	889	▲ 26	(3%)
ジェット燃料	113	102	▲ 11	(11%)
灯油	512	500	▲ 12	(2%)
軽油	697	731	▼ -34	(-5%)
A重油	289	314	▼ -25	(-8%)
C重油	234	159	▲ 75	(47%)
合　計	2,760	2,695	▲ 65	(2%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

2月9日時点の在庫は、ガソリン、A重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリンで取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは170.5万kl、前週差3.8万kl増。前年に対しては1.6万kl少ない。

灯油は180.1万kl、前週差12.0万kl減。前年に対しては52.6万kl多い。

軽油は154.9万kl、前週差6.0万kl減。前年に対しては23.1万kl多い。

A重油は79.5万kl、前週差0.6万kl増。前年に対しては10.9万kl多い。

C重油は205.5万kl、前週差4.9万kl減。前年に対しては11.9万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (2/9)	前週 (2/2)	前週比	
ガソリン	1,705	1,667	▲ 38	(2%)
ジェット燃料	753	757	▼ -4	(-1%)
灯油	1,801	1,921	▼ -120	(-6%)
軽油	1,549	1,609	▼ -60	(-4%)
A重油	795	789	▲ 6	(1%)
C重油	2,055	2,104	▼ -49	(-2%)
合　計	8,658	8,847	▼ -189	(-2.1%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

2月5日から11日の原油価格は、前週比で値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、2月5日～11日の間、ガソリン110円台でわずかに値下がり、軽油59～60円台でわずかに値下がり、灯油59円台でわずかに値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン111円台でわずかに値下がり、軽油62円台で横ばい、灯油59～60円台で値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン106～107円台で出入り後値下がり、軽油62円台で横ばい、灯油58～59円台で大きく値下がりして推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに0.5～1.0円の値上げとなった。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

今週の製品スポット市況は、全油種・全取引で、前週平均と比べ値上がりした。

2月第3週（2/14～2/20）適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格（2/5～2/11千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値）は、前週比で、ガソリンは0.5円の値上がり、灯油も0.1円の値上がり、軽油も0.1円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.3円の値上がり、灯油も1.7円の値上がり、軽油も0.8円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが1.5円の値上がり、灯油も0.1円の値上がり、軽油も1.0円の値上がりだった。

2月第3週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに0.5～1.0円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

（RIM）　（単位：円/㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(2/5 ~ 2/11)	前週　(1/29 ~ 2/4)	前週比
スポット価格	レギュラー	56.5	56.0	▲ 0.5
	灯油	59.8	59.7	▲ 0.1
	軽油	60.0	59.9	▲ 0.1

（TOCOM）　（単位：円/㍑）

[期近物/終値] 〔平均〕		今週　(2/5 ~ 2/11)	前週　(1/29 ~ 2/4)	前週比
先物価格	レギュラー	53.1	51.6	▲ 1.5
	灯油	59.1	59.0	▲ 0.1
	軽油	62.2	61.2	▲ 1.0

※上記価格は税抜き価格

参考値　（2/5～2/11実績値）　（単位：円/㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.5	▲ 1.5	▲ 1.0
灯油	▲ 0.1	▲ 0.1	▲ 0.1
軽油	▲ 0.1	▲ 1.0	▲ 0.5
A重油	▼ -0.1		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

2月12日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円安の142.9円、軽油は同0.1円安の124.1円、灯油は18㍑ベースで同2円安の1,595円（1㍑ベースでは同0.1円安の88.6円）だった。ガソリン・軽油・灯油ともに3週ぶりの値下がりだった。都道府県別には、値上がりが11都県、横ばいが9県、値下がりが27道府県だった。全国最安値は徳島県の136.8円（前週比0.6円安）、次が埼玉県の137.3円（同横ばい）、最高値は長崎県の155.0円（同横ばい）であった。最も値上がりしたのは1.0円高の鳥取県（141.3円）だった。最も値下がりしたのは2.0円安の山口県（139.2円）だった。

先週の原油コストは横ばいで、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社横ばいだった。

今週は、原油価格が値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりだった。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに0.5～1.0円の値上げに分かれた。次週（2月18日）のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値上がりが予想される。

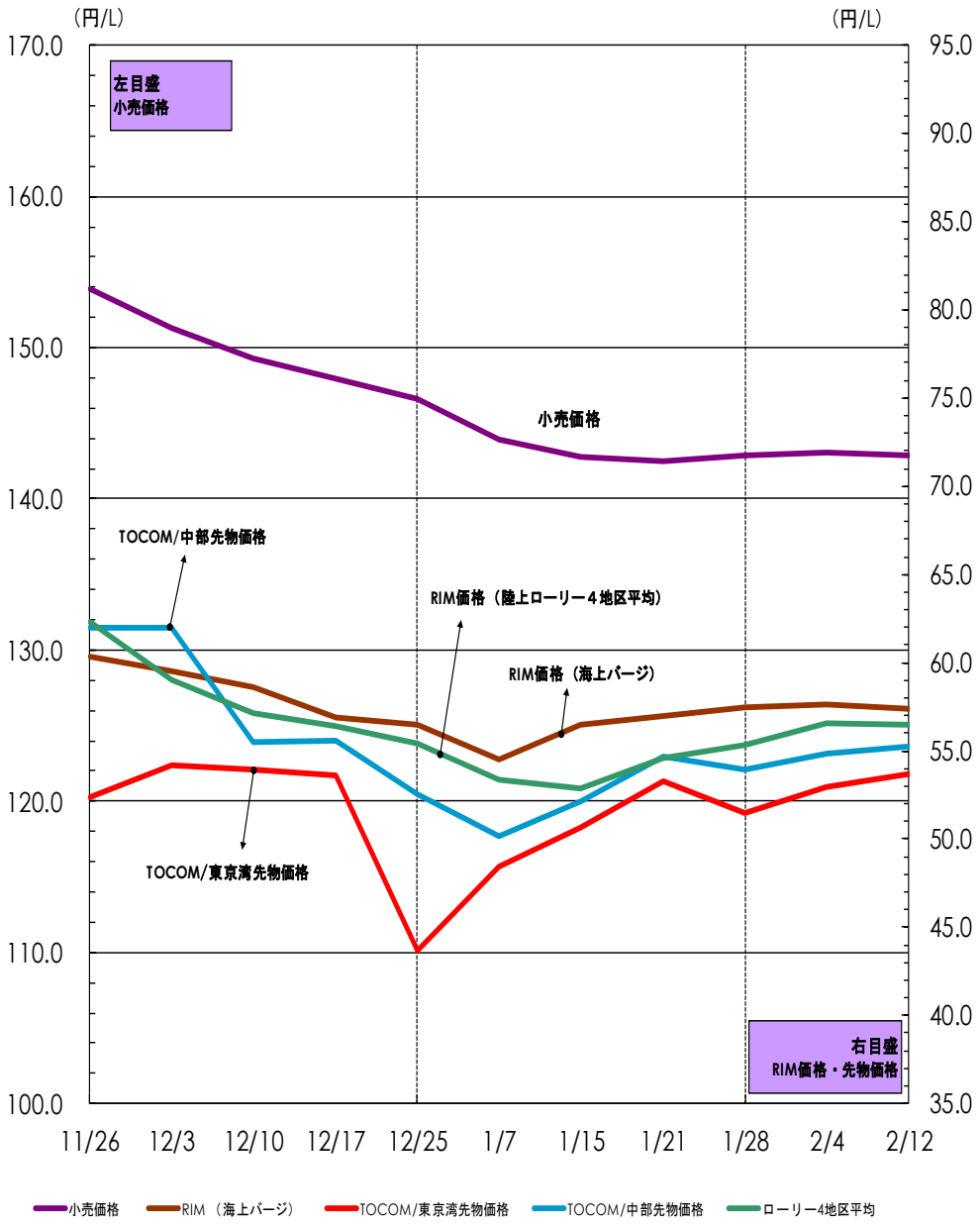
（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(2/12)	前週　(2/4)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	142.9	143.1	▼ -0.2	08/8/4	185.1
	灯油	88.6	88.7	▼ -0.1	08/8/11	132.1
	軽油	124.1	124.2	▼ -0.1	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/11/26　～　2019/2/12)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2018第44号）の公表は、2/22（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（平成30年9月末現在）は、12月19日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。